

ミクリ属植物

ミクリ属の植物は、栗のいがのような実をつけることから「ミクリ」とよばれます。実のつきかたで種類を見分けるので、細長い葉だけの状態ではどの種かは分かりません。

湖沼やため池、流れの緩やかな河川や水路などの水が浅いところでは、茎や葉を水の上に出して、抽水（ちゅうすい）植物として生育します。しかし、水が深いところや水の流れが速いところでは、やわらかな沈水葉（ちんすいよう）だけをつけて沈水植物の状態です。

抽水状態と沈水状態の葉はとても違うので、同じ植物とは信じられないでしょう。



富士市での現状

沈水状態のミクリ属植物が田宿川に繁茂しています。明るい黄緑色の沈水葉が、水の流れにゆれているのはとてもきれいです。流れが緩やかなところに抽水状態で実をつけていたのはナガエミクリだったので、田宿川に繁茂しているのはナガエミクリの沈水葉だと考えられます。滝川の下流ではミクリも確認されています。ミクリとナガエミクリは、国や静岡県で絶滅のおそれのある植物に指定されています。分布は、旧富士市域の一部に限られます。



(上) ミクリ属植物が水中で生えている様子
(左) ミクリ (右) ナガエミクリ

ミクリ属植物を確認したメッシュ

